

鹿島南部
農業用水

取水地点の変更で 逆水門の弾力操作を

霞ヶ浦・北浦をよくする市民連絡会議（飯島博事務局長）は七日までに、建設省霞ヶ浦工事事務所と県に対し、鹿島南部農業用水の取水地点を鹿島地区工業用水道の幹線に変更したうえで、常陸川水門（逆水門）操作の弾力化や魚道の新設により、水産資源の保護と生物多様性の保全に取り組むよう求める新提案を、要望書の形で提出した。鹿島南部の取水口は現在、逆水門のすぐ上流にあるため、塩害を受けやすく水門管理に柔軟性を持たせるうえでブレーキになっていた。連絡会議は、逆水門から遠く、塩害の起きにくい鹿島工業の余剰水の転用を提案しており展開が注目される。

市民団体が新提案

「農業と漁業の共存可能」

市民連絡会議はこれまで、①シラスウナギなど魚類の「操作②鹿島南部取水口の上」てきた。今回は、特に、日

水の余剰水に着目し、取水口移動の具体策に関して新たに三項目の要望を行った。要望書によると、①現在、逆水門の上流側に位置し、塩害が生じやすい鹿島南部農業（取水量は日量五千トン）などの取水口を変更し、鹿

島工業幹線からの取水に転じた操作に移行した。

計二百カ所といわれ、ケ浦の取水地点の約が、塩害を引き起こし、常陸利根川沿岸など、域に集中しているため、水の逆流を許さない厳水門操作が必要とされ、十日までに文書で回答するよう求めている。

常陸川水門は洪水と塩害防止のため三十四年前、波崎町宝山地先に建設された。その後、水資源開発事業が本格化。淡水化に伴う漁業補償も七五年に妥結し、案の骨格ともいえる即

一方、九五年の世界会議などを機に、生物性や水産資源保護を重んじる声が増え、漁業者団体などで強まっていた。市民連絡会議では、案の骨格ともいえる即